

平成30年度
自己評価報告書

平成31年3月31日現在

札幌ベルエポック美容専門学校

令和元年5月1日作成

目 次

1 学校の概要等.....	1	2-4 運営組織.....	1 8
学校の概要.....	1	2-5 人事・給与制度.....	2 0
自己点検・自己評価に対する姿勢.....	3	2-6 意思決定システム.....	2 1
学校関係者評価委員会の構成と意義.....	4	2-7 情報システム.....	2 2
教育理念.....	5	基準3 教育活動.....	2 3
学校の目標（今後5年間）.....	6	3-8 目標の設定.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
学校組織の整備.....	7	3-9 教育方法・評価等.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
学校組織の整備.....	8	3-10 成績評価・単位認定等.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
本年度の重点課題.....	1 1	3-11 資格・免許取得の指導体制.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	1 2	3-12 教員・教員組織.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
1-1 理念・目的・育成人材像.....	1 3	基準4 学修成果.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準2 学校運営.....	1 5	4-13 就職率.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
2-2 運営方針.....	1 6	4-14 資格・免許の取得率.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
2-3 事業計画.....	1 7	4-15 卒業生の社会的評価.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		基準5 学生支援.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		5-16 就職等進路.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		5-17 中途退学への対応.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		5-18 学生相談.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		5-19 学生生活.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		5-20 保護者との連携.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		5-21 卒業生・社会人.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
		基準6 教育環境.....	4 6

6-22	施設・設備等	4 7
6-23	学外実習、インターンシップ等	4 9
6-24	防災・安全管理	5 1
基準 7	学生の募集と受入れ	5 3
7-25	学生募集活動	5 4
7-26	入学選考	5 7
7-27	学納金	5 9
基準 8	財 務	6 1
8-28	財務基盤	6 2
8-29	予算・収支計画	6 4
8-30	監査	6 5
8-31	財務情報の公開	6 6
基準 9	法令等の遵守	6 7
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	6 8
9-33	個人情報保護	6 9
9-34	学校評価	7 0
9-35	教育情報の公開	7 2
基準 1 0	社会貢献・地域貢献	7 3
10-36	社会貢献・地域貢献	7 4
10-37	ボランティア活動	7 7
4	平成 2 7 年度重点目標達成についての自己評価	7 8

学校の概要

1. 学校の設置者

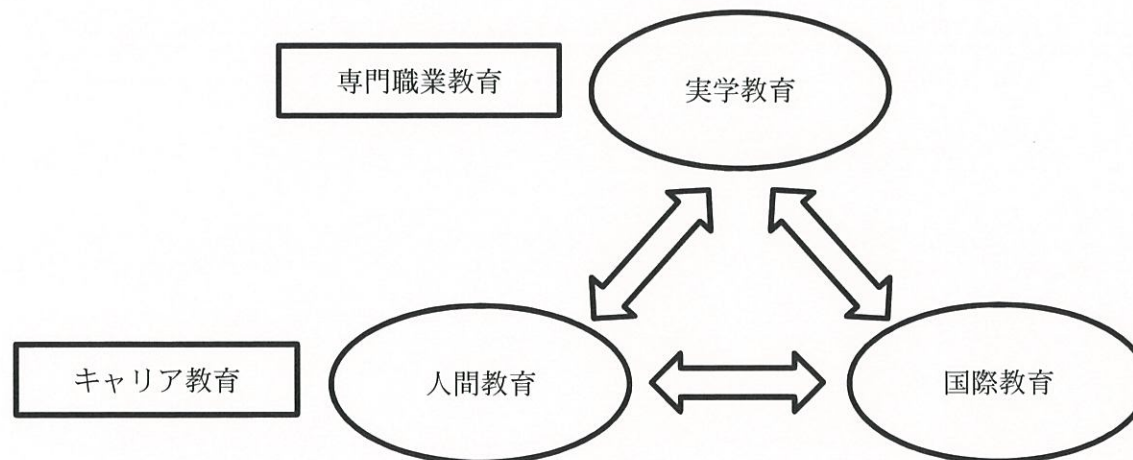
札幌ベルエポック美容専門学校は、学校法人滋慶学園が設置しています。学校法人滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人です。

2. 開校の目的

札幌ベルエポック美容専門学校は、美容、ブライダル、ファッションに関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を備えた、「クオリティ・オブ・ライフのコーディネーター」を育成することを目的としています。

その育成を通じて、若者から高齢者まで幅広い世代の人々が心身ともに健やかに美しく、豊かに生きていける社会に貢献します。

また「職業人教育を通じて社会に貢献する」という滋慶学園グループのミッションのもと、職業人教育は「専門職業教育」と「キャリア教育」の2つの要素で構成されると位置づけており、学園グループ共通の建学理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」が2つの要素に該当すると考えています。



学校の概要

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 藤井 英嘉 所在地 札幌市中央区北 1 条東 1 丁目 7-1 連絡先 011 (219) 6272

4. 学校の沿革、歴史

- 2002 年 学校法人滋慶学園 ベルエポック美容専門学校（原宿）の姉妹校として、ベルエポック美容衛生専門学校 札幌校名にて開校
- 2005 年 ベルエポック美容衛生専門学校 札幌校 から 製菓、調理系学科と分離独立し、札幌ベルエポック美容専門学校として開校
- 2007 年 新館増築
- 2011 年 ブライダルビューティ科設置（ブライダル科に名称変更）
- 2014 年 ヘアメイク科・トータルビューティ科夜間設置
- 2016 年 美容師実践科設置
- 2017 年 ブライダル科・トータルビューティ科夜間廃科

5. その他の諸活動に関する計画（防災計画）

学校と企業が連携した「現場力教育」に注力。北海道最大ファッションイベントである「札幌コレクション」に参加し、学生が現場での実習を体験し（現場体験実習）、プロの業界人から直接指導をして頂く中で、技術・知識はもちろん、マナーや挨拶、礼儀、時間管理、主体性の発揮など、学校での授業では学ぶ機会の少ないことを学習できる貴重なプログラムを実施しています。

防災訓練については、毎年消防署の協力を得て、定期的に行っています。

自己点検・自己評価に対する姿勢

2005年3月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校を持つ職業教育力の特徴は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。一人ひとりを目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり職業人教育※は、専門学校においてのみ可能なことです。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※の開発に取り組んできました。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズをふまえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図って行きます。

※ 職業人教育:職業人教育を我々は以下のように定義します。

職業人= 専門職業教育 + キャリア教育

専門職業教育とは、特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育

キャリア教育とは、職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育

※ 教育システム 広義の教育システムを以下の5要素で考えています。

「養成目的と教育目標」(養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標)

「目標達成プロセス」(カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス)

「目標達成素材」(教科書、教材、教育技法)

「目標達成支援人材」(担任、専任講師、非常勤講師)

「評価基準」(透明性、公平性、競争性)

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、**学校関係者評価委員会**を組織します。本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、学校関係者からの理解と参画を得て、意見、評価をいただきます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、**地域における学校関係者と学校との連携強化**を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていくことを約束いたします。

教育理念

① 実学教育

美容、ブライダル、ファッションの職業・職種で、即戦力となる知識・技術を身につけます。

実学教育の要となる教育システムがCPI教育システムです。CPI教育システムとは、Communication(導入教育)のC、Professionalism(専門教育)のP、Independence(実践教育)のIを意味し、導入教育では、美容業界でプロになるために、自ら目標設定することの大切さを学ばせます。専門教育では、授業で学んだことを、実習やコンテストで確認し、終了することを繰り返すことで、担任や講師からフィードバックとカウンセリングを受け、新たな目標を設定します。実践教育では、学び取った知識や技術を仕事で実践するために、自分なりの工夫を凝らし考える力を身につけます。

② 人間教育

いかなる職種においても必要とされる、プロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成します。

専門職として仕事をする上で、サービス力、コミュニケーション力が求められています。いかに技術的に優れていても人間性に欠けては信頼される職業人にはなれません。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になって来ます。まず、開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導に取り組んでいます。さらに就職講座や現場実習での事前・事後教育において、プロ意識を醸成するとともに、気づきの機会を与え、サービスマインド、コミュニケーション力を実践の場で身につけることができる環境をつくっています。

③ 国際教育

在学中からコミュニケーション言語としての英語、および専門英語を身につけるばかりでなく、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養います。

美容、ブライダル、ファッションの業界も、今では国境を越え、プロとして仕事をする上で、海外のお客様や取引先と接する機会はますます増えています。それぞれの分野で先進的な取り組みをしている海外の学校や団体などに赴き、学ぶことができる海外研修を実施しています。『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。

学校の目標（今後5年間）

5カ年の目標（2017～2021年度の5年間に、以下の目標を達成します。2017年度は5カ年計画の初年度）

1. 学校のブランド化。（商品力強化・イノベーションを図り、充足率100%を目指す）
2. 安定的な経営基盤をつくる。（魅力的な学校作りと業務効率化）

目標の意図

1. 少子化の波が押し寄せるなか、美容学校を取り巻く環境は年々厳しくなっている。しかし受験生・学生・業界にとって魅力的な学校作りをしていくことで永続的に学校を反映させていくことができると考えている。本校では「最新が学べる業界直結の教育」を軸に2016年度から学校改革に取り組んでいる。2017年度も学校改革を推進し、目標達成の1つの指標として定員充足率100%を目指していくとともに学校のブランド化を図っていく。
2. 学校を永続的に反映させていくために経営基盤、とりわけ財務基盤を整えていくことは大変重要であると考えている。魅力的な学校作りを行なうことで定員充足を図り、同時に運営面では業務の効率化を目指していく。

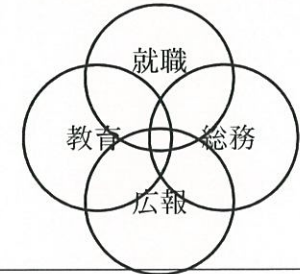
以上の目標を達成する過程で在校生・美容業界・受験生・高校・地域から信頼される北海道NO1の美容学校を目指す。

学校組織の整備

① ツッカー型組織

私たちの学校は大きく4部門(教務、企画、就職、総務)で構成されています。それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。

機に応じて役割が変化したり、通常の役割を越えて働くことを良しとする、サッカーのような組織を理想としています。



②職務分掌

理事会	グループ総長	滋慶学園グループ全体の運営方針、人事の決定を行なう。
	法人理事長	滋慶学園グループの運営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行なう。
	常務理事	滋慶学園グループの運営方針に基づき、グループ校の運営方針の決定を行なう。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	副学校長	学校長を補佐・代行し、学校業務の質と実績を高めるために助言・諸活動を行なう。
	エリア長	常務理事を補佐し、グループ校の運営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行なう。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	特に教育活動の業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現の諸活動を行なう。
	学科長	学部・学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	FDC	'(Faculty Development Coordinator) 学校毎に教育力【1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック】向上のための教育改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言する。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員、及び学生の環境整備について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その向上のための責任を負う。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行なう。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し積極的にその諸活動を行なう。

学校組織の整備

③学習する組織

私たちの学校は、学内において教職員が組織的に学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

1. 知の蓄積と伝承を促す組織的学習システムの構築

学習グループの推奨 学校の基本単位は教務部と事務部で、それぞれ学科、センターがあります。2～5名程度のメンバーで構成されるそのチームを学習グループとして位置づけます。また、クロスファンクショナルなチーム(プロジェクトや委員会など)も同様に学習グループとして位置づけ、自問自答と対話と探求による学習を行ないます。

2. 自問自答と対話と探求による意思決定システム

自問自答 会議・研修は事前準備され、目的、議題、資料などは事前に参加者に配布します。参加者は事前に自分なりの考えと、なぜ自分はそう考えるのかを問い詰めてから参加します。主催者は、あらゆる個人のあらゆる問い、疑問、質問を尊重し、傾聴する場づくりに努めます。大切なのは自答ではなく、自問です。考え、調べ、学ぼうとする個の力を育成するのがねらいです。

対話(ダイアログ) 主催者はすべての参加者が役職や立場などに関わりなく平等に議論する場をつくるよう努めなければなりません。主催者と参加者は、対話の結果たどり着いた合意が、単なる妥協や組織内政治の結果ではないか、本質的な問いとなっているか、組織の原則・基本理念と整合しているか、をよく検証する必要があります。

探求(根拠を問う)の推奨 問いや主張が対立し、平行線をたどるような場合、相互の主張や考えの背後にある事実やデータについて議論するよう、心がけなければなりません。それぞれが主張する推論の根拠を問い、誰が正しいのか?ではなく、なにがより筋の良い問いであり、仮定であるかを大切にします。

会議のシステム

グループ会議

【グループ戦略会議】 月1回

学内会議

【全体会議】 月1回 全教職員

【運営会議】 月1回 局長、部長、学科長、センター長

【学科、センター会議】 月1回 学科スタッフ、センタースタッフ

【TBM (Tool Box Meeting)】 朝礼、終礼、他適宜

学校組織の整備

④意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方法	目的	実施回数	主催者	対象者
常務会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関	7回/年	総長	常務理事・指名者
グループ戦略会議	グループ最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	6回/年	常務理事	エリア長・指名者
運営会議	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行なう。学科長クラスの目標達成力及び問題解決力を育成強化する。	1回/月	事務局長	部署リーダー
全体会議	建学の理念、4つの信頼を基に第5期5ヶ年計画と事業計画の諸方針に従った日常業務の遂行方法を学ぶ。学科部署を越えた共通の課題から、特に重要な問題について認識を共通にする。	1回/月	事務局長	全教職員
部署別会議	各部署の年度目標達成に向けて発生する様々な問題を協議、解決する。	1回/月	部署リーダー	全教職員
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に協議する。	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
ミーティング				
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について時間をとって話することにより、スタッフ、トレーナーへノウハウやスキルを伝え、問題解決、発見につなげる。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ/トレーナー
講師 O・N・O	教育システム改革に基づく授業運営、教育方針の徹底をはかり、問題発見の機会とする。	1回/年	事務局長・教務部長	講師
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善をはかる。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする	毎日	事務局長	全教職員
E・メール				
議題・議事録	議題配信:事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信:決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	議長・書記	参加メンバー全員

※ O・N・O ONE・ON・ONE の略 1対1の面談

学校組織の整備

⑤滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所(略称 JESC、以下 JESC という)は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。本校が参加する JESC の主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための職員の研鑽と人材育成の場として毎年開催しています。
JESC教育部会 美容教育部会	美容に関連する学科、コースを設置している学校で部会活動を行なっています。活動内容は、情報収集、資格試験データ分析・データ管理、講師、実習、求人の相互活用、模擬試験問題作成などです。
教務マネジメント研修	教務マネジメントに携わるマネージャーを対象に研修を行ない、教務マネジメント力の向上を目指しています。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と、直接学生と接点を持つ前教職員が2年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識技術を活かし、学生カウンセリングを行なっています。
OJTトレーナー研修	新入職者に対してトレーナーとしての心構え及びトレーナーに求められるスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しめるよう研修を行なっています。

⑥学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の 5 ヶ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画を落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行なっています。
広報(入学前教育)研修	広報は入学前教育の考え方をもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適正に合わせた進路指導ができるよう研修しています。

平成 30 年度の重点課題

① 学校のブランド化推進

学校を永続的に存続させていくために学校のブランド化を図っていく。ブランド化とは、「本校がどんな学校であるか」を、学校に関わる全ての方（学生、教職員、業界、高校、近隣）に認識してもらい事と定義して改革を進めていく。

平成 30 年度は、昨年度に基盤を作り上げた産学連携と東京・原宿にある姉妹校との連携を強化して「最新の美容・ファッションが学べる学校」としてブランド化を推進していく。

指標として、入学者数 240 名を目標とする。

② 学校運営の基本に立ち返る。

ブランド化推進と平行して、一人ひとりの学生のサポートという教育の基本に立ち返り、下記の項目を重点的に取り組んでいく。

教育(進級率)

中途退学者のみならず転科者対策も含めた指導体制の見直しを実施し、91.5%を最低目標とする。具体的には現場実習を中心とした教育で学生のモチベーションを高め、社会で生きる力を身につけてもらう。教員の学生への関わり方として「自己肯定感」を高める指導を実施していく。

就職(就職率 100%)

早期内定獲得を目標として、最低ラインとして全員就職を達成する。また、学校のコンセプトである「最新の美容・ファッション」を学んだ成果として札幌・東京のTOPサロン、ヘアメイク事務所等へ就職できる学生を増やしていく。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>札幌ベルエポック美容専門学校は、『職業人教育を通じて社会に貢献する』ことを目的にキャリア教育を実践し、学生が辞めない学校づくりとして一人ひとりの学生と真剣に向き合い、就職と資格取得の実現を通じて、美容・ブライダル・ファッション業界の顧客に支持されるブランド力を持った総合美容専門学校となることを目指す。</p> <p>特に社会の変化に対応した学校・学科作りの基本として 3 つの建学理念 ①実学教育 ②人間教育 ③国際教育を実践し、4 つの信頼 ①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼を基本的な考え方、行動の判断基準として美容分野におけるプロの職業人を養成する。</p> <p>また本校は、そうした時代の変化に対応できる人材の育成に力を入れ、社会人基礎力がしっかりした人材育成のため、その専門職として、FDC (Faculty Development Cordinator = 教授力向上のコーディネーター) を置き、育成人材像から学科の教育内容の見直しを図っており、特に人間教育に力を入れ「キャリア教育プログラム」の導入を図っている。将来の自己のキャリアを作っていくためには、ポートフォリオの制度化と自己肯定感を高める教育をフローで行い、キャリア形成・キャリア設計・キャリア開発のプロセスを経て卒後はさらにステップアップする教育体制を目指す。</p>	<p>ポートフォリオを活用し「入学前教育」から「卒業後教育」までをフロー教育として捉え、学習歴をきちんと記録しながら、将来のキャリア開発に活かす。</p> <p>また、学生はポートフォリオを自己の経験知として認識し、自己実現できる能力を身に付けられるようにシステム化する。</p>	<p>企業・業界を巻き込んだ「現場体験学習」を教育体系の中に取り入れている。</p> <p>特に、札幌コレクションは 30 年度で 9 年目の参加となり、学生の参加人数も 200 名以上と多くなってきている。</p>

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	下山 記弘
--------	----------------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	5	<input type="checkbox"/> 学園の理念に沿った目標を掲げ取り組んでいる <input type="checkbox"/> 理念等は文書し明確に定めている。 <input type="checkbox"/> 美容系分野の養成校として特性が表れている。 <input type="checkbox"/> 実学と人間教育、国際性を身につける教育体系が組んでいる。 <input type="checkbox"/> 養成目的、教育目標、シラバスが計画に基づいて実施されている。 <input type="checkbox"/> 学生・保護者への浸透はある程度はかかっている。関連業界等についてはバラつきがみられる。 <input type="checkbox"/> 浸透度の確認については明確な方法を用いていない。			当該年度事業計画
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	5	<input type="checkbox"/> 関連業界等との共同プロジェクトを通して毎年の修正と明示を行っている。 <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定に関連業界から情報収集している。			

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<input type="checkbox"/> 一般公募とは別に関係業界からも学校側から積極的に募集し窓口を公にしている。 <input type="checkbox"/> 実習の前後教育を含め、業界からの協力を得て実施している。 <input type="checkbox"/> 業界や専門職講師からのアドバイスを開講準備会議等で集約している。			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	5	<input type="checkbox"/> 問題解決技法をもとに体験学習(学生サロン)の機会を学年歴に積極導入している。			入学案内パンフレット
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	5	<input type="checkbox"/> 中期的な視点として事業計画勉強会を開催している。 <input type="checkbox"/> 学校・学科レベルにおいても事業計画を策定し組織内での周知がなされている。 <input type="checkbox"/> 将来構想をHP、入学案内等で告知している。			事業計画書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
理念、目的目標、育成人材等においては、事業計画を基に教職員、学生に周知してもらう機会を設け、認知と理解度を深めてもらうことに注力している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営に関しては、滋慶学園グループ共通の理念のもと、中長期計画（3～5年）と1年ごとの事業計画を策定し運営を行なっている。</p> <p>組織の意思決定は月1回行なわれる運営会議を中心に各部署会議、プロジェクト会議等を開催している。また、教員の資質向上のための各種研修も学園内の研修機関 JESC と連携して実施している。</p> <p>情報システム等についても滋慶学園グループの関連企業と連携してセキュリティ面、運営面で万全の体制をとっている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・5ヵ年計画を策定している ・事業計画は1年後ごとに策定し、毎年見直している。 ・情報システムは、滋慶学園グループの関連企業 BSC と連携してパソコン・ネットワーク・ipad での出欠管理等を実施している。 ・FD活動（教員の教授力向上）や教職員研修を組織的に実施している。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	5	<input type="checkbox"/> 事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」について明確に文書化し、周知、浸透の機会を常に設けている。 ・文書としての配布 ・勉強会の実施 ・全体研修での周知と理解度確認を実施。			事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>運営方針については、年度当初から周知され、教職員のすべてが理解し実践していると思われる。但し理解度、実践度においては個人差もあり、これを向上させる必要があると考える。</p>	<p>新入職員に対しては、毎年3月末に学園全体の理念・方針などの考え方についての研修(スタート式)を実施しており、出来るだけ個人差が出ないように工夫をしている。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	5	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定め周知のための勉強会も設定している。 <input type="checkbox"/> 中期計画からブレイクダウンした単年度計画も明確に定められている。 <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を数値で明示。 <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制においては、「組織役割表」設定し明確化している。 <input type="checkbox"/> 執行・進捗管理状況は運営会議で「毎月2回」確認を行ない、事業計画は「半年」を目安に（予算等の）見直しの機会を設けている。	特になし		事業計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画についても、毎年すべての教職員に開示され、定量目標ならびに定性的目標も明確に示され、勉強会、説明会等を実施し周知に努めている。 また、月2回の運営会議での進捗状況のチェック、半期ごとの計画の見直しなど、執行体制も機能している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。 <input type="checkbox"/> 理事会、評議員会共に必要な審議と議事録の作成がなされている。 <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて改定の機会が設けられている。	特になし		理事会、評議員会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	<input type="checkbox"/> 組織体系の整備、役割の明確化もされている。 <input type="checkbox"/> 毎年の事業計画に基づいた新年度組織図が作成され、教職員に開示されている。 <input type="checkbox"/> 各部署の組織役割表を基に明確化されている。 <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の職務分掌を規定し、意思決定のプロセスを明確化している。 <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、必要に応じて作成・保存している。 <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備している。 <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正されている。	特になし		組織図 （事業計画内に記載） 組織役割表 （事業計画内に記載）

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	<input type="checkbox"/> 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		部署別研修や職階ごとの研修の機会を設け、資質の向上に努めている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
部署内の連携については学科会議等で、部署間の連携については教務会議・運営会議等で定例化されている。また、各行事のプロジェクトを通じて若いスタッフ間の連携の機会を増やすなどの工夫を行ってきた。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	5	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きいずれも明確に規定されている。 <input type="checkbox"/> 常に能力ある人材の確保については継続しているが、理想に合致した採用計画の遂行と維持には困難を感じる。 <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、労働条件通知書をもって明確化している。 <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を「目標管理制度」として明確化している。 <input type="checkbox"/> 評価システムを規定し、数値目標での評価と情意効果の両面で評価している。	特になし		採用規定と評価システム 就業規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個々人の状況に応じて、多彩な採用形態をとっており、専門職者、総合職者ともに、役割に応じて明確な採用基準と評価システムがある。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	5	<input type="checkbox"/> 教務においては学校長が主催する進級・卒業判定会議にて意思決定する。 <input type="checkbox"/> 財務等の事務処理においては事務局長の決済のもと意思決定がなされている。 <input type="checkbox"/> 組織図と職務分掌において規定されている。			職務分掌 (事業計画内に記載)

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教務および財務の処理手続きに関する意思決定と体制については、明確に規定され、学校内だけでなく学園内の専門部署においても複数のチェック体制が整備されており、現在まで大きな問題は発生していない。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	5	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システムはAS400システムにて本部とも連動し、セキュリティシステム及びデータバックアップシステムとも整備されている。 <input type="checkbox"/> 学生個々の重要な個人情報に伴うので、専用プリンターの設定やアクセス権限に制限を設けているが、要求に応じて出力できる体制がある。 <input type="checkbox"/> iPadによる出席管理システムを導入し、リアルタイムでの出席管理が可能となった。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
滋慶学園グループ関連企業と連携して強固かつ便利な情報システムが構築されていることで効率化、省力化が図れている。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><教育課程> 年度内に全ての教育プログラムを計画通りに実施</p> <p><実学教育></p> <p>●総括</p> <p>　　<主体性と発信力のある学生の養成></p> <p>　　・カリキュラムのイノベーションを実施 　　　　業界特別授業の年間実施 　　　　1年次 国家試験対策のスロースタート</p> <p>　　・トップサロン、人気サロン、第一希望サロン内定に向けての仕掛け(就職活動動機づけ)</p> <p>　　・国家試験レベル別教育(国家試験直前)</p> <p>●課題</p> <p>　　・特別授業のバリエーション不足</p> <p>　　・授業についていけない学生の、個別の受け皿不足</p> <p><教員組織> 常勤職員と非常勤講師との密な情報共有、国家試験合格に向けた技術勉強会、学生の目標達成に必要なかつ十分な教員集団としての経験の積み上げが出来ている。</p>	<p><教育課程> 教育課程編成委員会をはじめ、業界からの声を出来る限り反映させていく。</p> <p><実学教育></p> <p>　　・各自の目指す美容師像、就職先を業界特別授業等を通して設定させる機会を増やす。</p> <p>　　・国家試験対策授業に関しては特に、レベルに添ったミニ補習を1年次より実施し「ついていけない」と極力感じさせない受け皿を増やす</p>	<p>●1年生 <全体的には学ぶ意欲がある> 上昇志向の学生と、身の丈(マイペース)学生が混在している 「上昇志向の学生にはついていけない」と悩み結果的に学校を辞めていく学生が、進級前に増加。秋以降に息切れを起こし、周りと比べたりクラス内の環境も乱れ始めるケースがあった。 ただ、その絶対数は減少しており 結果的には過去の1年生から比較すると、単位未修得者は4分の一ほどになり、進級率も開校以来初の高い率だった。</p> <p>●2年生 <進級後に出来ないと断念する学生が減らない> 2年次になり、美容師に対しての夢や自分にやっけていけるか悩んで辞めたり、国家試験授業が1年次よりも増えることでメンタル的にもスキルのにもついていけずに長期欠席になるケースが多い。 また、結果的に卒業を目標として「美容師」にはならない、あるいは卒業半年後の美容師免許取得を目指そうとする学生がいる</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	年度後半に当該年度を検証し、教育課程編成委員会のご意見を加味して次年度の新しいカリキュラムに反映させている。	業界と想いを共有し、発展させる上で学生をどう養成していくかの視点で活発な意見交換が重要。また行事を共に実施するなど仕掛け創りが課題。	就職ガイダンスのイノベーション(学生とのマッチングについて共に考え、内容改善) 業界合同行事 JOINT の活性化	教育指導要領
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> 各学科各学期ごとに到達目標を設定 教育目標に照らし合わせて設定している 資格免許の担当教員を選任し入学段階よりフロー教育プログラムにしている 国家試験合格に向けて、1年次からのAL型授業の実施により、筆記に対する興味は持たせられた 	到達レベルの見直しは、その時々学生を見て、講師の授業運営も確認しながら進めていく必要がある。 特にAL型の授業を主流とする運営が出来るか、受け手の学生の様子をよく観察する習慣をつけることが課題。	座学に関してはALの実施と、学生評価の高い授業の共有と公開授業、勉強会の実施	教育指導要領

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
建学の理念に基づき、3つのC「AP,CP,DP」をそれぞれに明確にした計画設定を徹底する。「最新を学び」学校として、学生の主体性を延ばす仕掛けを更に増やし、引き続き取り組む。	道内外問わず業界動向に敏感に、業界特別授業の活性化と卒業生座談会を積極的に実施している。その他学校行事等を学生主体のものに切り替え、実行力・主体性を身につける機会を増やしている。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年の教育課程編成する際に学科長がカリキュラムプレゼンを学校責任者に実施している。 ・教員・時間数は法定要件を満たした上で一般科目をバランス良く配分している。 ・教育課程に明記 ・目標に沿ってその分野のスペシャリストである講師がシラバスを作成し授業を運営。 ・到達目標の設定に基づき適切に授業携帯を選択している ・授業内容に適切にグループワークなどを取り入れて指導方法に変化を持たせている 	入学する学生の質が幅広くなり、集団生活の困難な学生やコミュニケーション力の低い学生・低学力・低技術学生・精神的に問題を抱えた学生等に対する今まで以上の対応が必要になると考えられる。多くの受け皿が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペナルティではなく、弱点克服の個別補習を実施・強化していく。 ・学校の教育方針である業界から最新を学び、主体性と人間力を身につけることに添った教育内容になっているかを定点チェックしていく。 	カリキュラム（学生便覧） 教育指導要領 シラバス 授業報告書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているかを <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオを活用し職業実践教育をプログラム化している。 ・該当なし ・シラバス・コマシラバスともに作成している ・年度ごとに見直し改定を行っている。 			カリキュラム（学生便覧） 教育指導要領 シラバス 授業報告書
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間教育」の視点で社会人基礎力のある学生育成を産学連携教育に入れ込む。「挨拶」に注力している 	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金を借りている学生に対して実際のマネープランをまだ十分に落とし込めていない。 ・人間教育の不充分さはまだまだ課題が残る。時間管理に関して改善しつつあるが、「自分から進んで笑顔で挨拶こること」に課題が残る 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生サービスのみならず、教務・担任が学生の経済状況・奨学金状況を更に把握すること ・人間教育の観点でも業界からの指摘を引き続き入れ込み、実際に学生が変われるようやり続ける 	カリキュラム表
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の定義である、入学前→在学中→卒業後のキャリア形成からキャリア開発へのフローで教育体系が作られている。 例えば入学前も本校では「入学前教育」と定義してオープンキャンパスを通じて受験生の「勤労観」「職業観」を育てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間教育と直結するので、働く意義と併せて担任中心に授業内に入れ込んでいるが、目に見えた効果が出ていない 		

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	5	・業界訪問を通して欲しい人材に照らし合わせて意見を頂いている		業界からの「声」をスタッフ全体にも浸透させる	
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	5	・授業アンケートを実施し、その都度担当講師にフィードバックを実施している。その他、学生から上がった声を日を置かずに講師にFBしている。 ・授業の集大成としての位置づけである、ベルエポックコンテストの他に、学内コンテスト等で業界プロにも審査し、一人ひとりにフィードバックして頂いている。	・学生から上がった声を受け取る講師の価値観の差が広がっている。	・最新を学ぶ教育方針なので、イノベーションが難しい講師との面談と必要であれば改善要求を続ける	授業アンケート集計表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実学教育は高い国家試験合格率、コンテストの入賞、企業課題の取り組みの実績で検証できる。人間教育は本校独自の教育方法のポートフォリオの活用で確立している。	授業評価や行事での評価は積極的に習慣化して行っているが、教育方針に添った教育が出来る講師陣を整えていく

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・学則及び学則施行細則にて明記し全学生に配布している。 ・試験規定を作成しその基準に準拠し公正公平に評価している。また、進級や卒業については判定会議を実施している。 ・学則に単位読み替えについて明分化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績基準を明確にする一方で、長期履修が必要な学生が増えてきている。そのシステムをより解りやすく整備することが課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期履修の条件の明示化と、SSCを絡めた遠隔授業の方法を整備し、必要な学生に明示し、新たな学び方がある事を提案する 	学則 学則施行細則 進級判定会議議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・在校生のコンテスト参加実績の成果を SNS に UP し入学案内等の印刷物にして保管している。 			SNS 入学案内

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
学則に則り適切に成績評価・単位認定している。モチベーションを切らさない工夫として、産学連携実習、学内行事も含めた学年暦で計画的に運営している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前より動機付けを行い入学後も継続し明確にしている。 ・カリキュラムに対策講座を明記し補修についてもシステム化が出来ている。 	特になし		学校案内 カリキュラム
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・業務役割分担表で担当を決め、複数の担当教員と連携し受験指導をマネジメントしている。 ・不合格者については合格するまで学校が無償でサポートする「合格サポート制度」で、今年度も再チャレンジ者全員が合格した。 			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格合格については、低学力者の早期発見とその対策、および実技試験、筆記試験の両方について、メンタルサポートが必要な学生の見極めが、重要なポイントとなる。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定科目はコンプライアンスに沿って、一般科目は経験と教授能力で選任している。 ・ 履歴書・資格書の提出を持って確認している。 ・ 業界での経験を重視し適合しているかを確認している。 ・ 業界講師や業界に人材の紹介を依頼している。 ・ 10月より次年度に向けての配置計画を行っている。 ・ 業務役割分担と講師時間割にて把握している。 	特になし		カリキュラム表 法定科目教員要件一覧 講師別時間割

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の浅い教員向けの研修を施しマインド・スキル・フォローアップの3点の研修を行っている ・業界団体の研修やJESC研修など年に複数回の研修をしている ・学内での教務研修は公開授業形式で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内でのFD活動の機会として「学内教務研修公開授業」の実施回数不足。 	授業担当講師も交えた、授業改革勉強会を定期開催（年に3～5回）担任とのONOを積極的に実施	研修企画書
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・分野毎の教員はコンプライアンスに沿って整備し、組織役割表と業務役割分担表において分担と責任は明記している。 ・年に2回の講師会議やTBMにて連携・協力体制をとっている。 ・最新を教えられるよう、授業改革、ALやネットを駆使した勉強会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師、教職員の学ぶ場が不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師、教職員が学ぶ場を更に多く提供するAL型授業の動画配信や、PP作成研修などの「授業改革のための勉強会」を実施 	組織図 業務役割分担表 講師会議企画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
コンプライアンスに適合し、且つ、現場経験が豊富で、教授力の高い教員組織を形成している。教務教職員の定着率も高く教育機関としての人材の充実も図れている。	授業アンケートの結果や学生からの声をリアルに即導入。講師や教職員の学びの場を増やしている

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><就職実績></p> <p>就職希望者 141 名 内定者 141 名</p> <p><国家試験実績></p> <p>■美容師国家試験 美容師科 83 名合格／86 名受験 96.5% ※30 名以上受験の美容学校で 全道 1 位の実績</p> <p>■CIDESCO 国際ライセンス（エステ） 8 名全員合格 100%</p>		

最終更新日付	2019 年 5 月 1 日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	----------------	-------	-------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職目標を設定している ・ 就職活動状況表にてリアルタイムに把握している ・ 第一専門職の業界とは常に情報共有し就職状況を把握している ・ 業界団体のセミナーや本校主催のセミナーなどを実施している ・ 月に1回数値データとして管理している 			就職5つの数字 就職活動状況表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>「就職すること」の動機付けが近年と比べ、弱かった。理想と現実のギャップと、多科目の未履修により、卒業することの優先順位が上がることで就職活動の遅れが見られた。今後は就職に対する動機付けのみならず、学校生活の送り方の指導が重要となる。</p> <p>業界で活躍する人材をより多く輩出することが使命と考える。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得目標を設定している ・必修資格はカリキュラムに対策講座を組み込み、選択資格は放課後に対策授業を実施している ・全国と北海道どちらも比較を行っており国家試験は全国でもトップクラスの合格率である ・国家試験対策会議を定例で実施し改善を図りながら指導している 	<p>総ての資格合格率は非常に高いが、国家試験における筆記試験の「低学力者対策」に課題が残る。</p>	<p>学内、グループの力を結集し、組織的かつ計画的に学生フォローを実施する。</p>	<p>事業計画書</p> <p>時間割</p> <p>作問体制&統一模試</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>開校以来、高い国家試験合格者を継続している。道内の最新の平均合格率と比較しても高い実績である。国家試験取得を目標に学生を指導し主体的に受験する文化も醸成されている。今後も高い合格者を継続するべくシステムのブラッシュアップと人材の育成を継続していく。</p>	<p>国家試験は常に100%合格を目指す</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先訪問や業界授業等に卒業生が来ることが多く、仕事の状況等をヒアリングしている。離職はあるものの、スタイリストや店長になる卒業生も増加している。 ・コンテストの出場・受賞状況は常に把握できている 	卒後1年以内の離職率が10%台であり、本校の大きな課題である。	在学中の教育と、就職先選定のサポート、卒後の同窓会などによるフォロー体制を構築していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
独立したり店長クラスになる卒業生が増え、本校の社会的評価は向上している。一方で卒業後1年以内の離職者が高い水準にあり、今後の課題である。	卒業生からの要望として、卒業生情報交流会や勉強会をして欲しいという声が多い。卒後支援として企画予定。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><中途退学者> 目標 22名以内 / 419名(5.3%) 実績 27名(6.4%) うち1名 美容師通信課程へ転科</p> <p><進級率> 目標 236名(91.5%) 実績 235名(91.1%)</p> <p>中途退学者は目標からは約1%未達成だったものの進級率に関して、特に美容師科においては90.9%と開校以来最も高い進級率となった。 反面、2年生からの退学者が減少せず、国家試験授業が増える進級後から脱落する学生が後をたたない。また辞める要因が学外に多いが、そのきっかけは学内(授業等)にある。</p> <p>学生の支援としては、担任のみならず、学校全スタッフが共有し対応に当たっている。結果迅速に対処をすることで救える学生もいるが課題は多い。 チームで問題解決することが重要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムと学校行事の連動の充実 産学連携教育を軸に主体性と人間力に注力するが、そもそもここまで到達するまでの学生を養成していくことが重要である。 そのための年間スケジュールの見直し（学びと自己成長を実感できる教育行事）と産学連携教育の頻度を増やし、ついていけない学生への請け皿を同時に作る。 ・最新を学ぶ視点を持ち続け、学生に自己成長の学びの場を多く与える 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識の高い学生と、それに憧れて入学する学生とがいるが、全体としては高い視点で教育を進めていくがついていけない学生に対する受け皿を作る必要がある。 その落差が激しい現状である。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアセンターを中心に卒業年次生担任との連携以上に、マネージャーを巻き込んで学校全体で就職支援をしている ・ 共通のファイルで常に閲覧可能な状態である ・ 就職決意式・グループディスカッションを開催している ・ 就職講座と個別指導で実践している ・ 個別面談や面接練習、履歴書指導は随時行っており適切に対応している 	キャリアセンターと卒業年次担任だけの連携では、トップサロンや第一希望への内定は難しい。 役割を超えた全員の関わりを持てる仕組みづくりが課題。	就職プロジェクトだけでなく、教務会議の中で学生状況の把握と併せて内定状況等の確認、面談や就職対策に多くの職員で関わる	就職講座シラバス 就職活動一覧表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
1年次からのフローでの就職支援体制と、業界行事東都連動して就職動機付けが行われている。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中途退学者の傾向・分析を毎年総括している ・ キャリアサポートアンケートの結果と入学前の情報をまとめ見える化。しっかり把握し、学生対応に当たっている。 ・ 指導履歴や学生状況の流れが一目でわかる面談記録をとり、誰でも対応できるようにしている。 ・ SSC との連携で学習面・精神面での適切な支援ができる体制をとっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の適切な対応力の強化 ・ ついていけない学生への受け皿が出来あがっておらず、後手後手になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生を見る観察力と主訴を見極める目を養うために、担任力のあるベテランスタッフの動機付けを見学する機会を作る。 	教育総括 キャリアサポートアンケート

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
退学面談の際に、目的意識が明確かそうでないかの見極めに時間を要した結果、学籍移動学生数は減少したが、学校の授業や行事が辛くなり学外のアルバイト等に重点をおくことで退学に繋がるケースがあった。また入学前からの持病から退学を余儀なくされる例もあるので、慎重かつ迅速に対処する力も必要である。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	5	<input type="checkbox"/> 学内に SSC を開設し支援体制を構築している <input type="checkbox"/> 計画的に SSC の学生への案内活動を行い利用しやすい環境を構築している。 <input type="checkbox"/> 相談記録は閲覧を制限する形で保存している ・カウンセラーの見立てによって適宜促しをしている ・卒業生にも必要に応じて対応している	特になし		
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	5	<input type="checkbox"/> 留学生の相談は担任が中心となり相談に応じている <input type="checkbox"/> 母国語での対応が必要な場合は学園グループのスタッフの協力を得て対応している また、入学前と入学後と継続し生活指導も行っている	30年度はトータルビューティ科ネイルコースに台湾人留学生が1名在籍。 ネイル検定1級に見事合格。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生相談の中心として担任を配置し、学生カウンセラーの学校窓口になる選任の教員も配置し、学生・カウンセラー・担任の橋渡しをしている。学生カウンセラーは JTSC より適切な人材を派遣してもらい専門学校生に対応するに相応しい人材を確保している。</p> <p>留学生は、北海道エリアで留学生支援担当と連携し学校を超えての支援体制も確立している。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて滋慶特別奨学金の活用を行っている、また大規模災害時や家計急変時には適宜支援している ・募集要項に減免制度を明記し運用している ・公的支援制度を適切に活用し適切に利用するように学生指導している ・学生・保護者に適宜文書と口頭で情報提供している ・経済支援制度の利用一覧を作成し実績をリアルタイムで把握している 	奨学金の返還延滞者をなくすことが課題。	適切な就職サポートと卒業後のフォロー体制を構築する。	奨学金学生納入一覧
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断を計画的に実施し、有所見者の再健診を徹底し結果を把握し必要な処置を講じている ・学校医は選任していないが医務室を常設し、外傷薬に関しては常に整備している 	特になし		健康診断結果

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理は就職活動に関連付けて啓発しており、心身の健康相談についてはSSCが兼ねている ・近隣に指定医療機関を置いている 			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の学生寮を整備している ・寮との会議を定例で開催しており必要事項の共有を行っている ・寮会議での議事にて明確になっている 	特になし		
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> ・現在クラブ活動等は行っていない 	特になし		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生生活全般のきめ細やかな生活指導が確立しており、出席状況の把握・アルバイト状況・友人関係においても日々の定点観察と学生面談を通して把握し集団指導・個別指導を行っている。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を実施するとともに計画的に保護者便りを送付している。 ・学生の学力支援・心理支援双方において保護者に開示し協力体制の構築に勤めている ・緊急連絡先（自宅・携帯・勤務先）をファイルしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族関係と学費、学生のモチベーションは関連が大いにあるが、心配学生の保護者とのつながりをうまく持てない点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に学費に関しては、家族関係が難しい場合は本人と直接話し、解決策を練る 	緊急連絡先

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の問題が深刻化する前に保護者への連絡を行い、必要に応じて保護者面談を実施している。また、保護者便り、本校のツイッターを通しての授業風景の開示や保護者便りを通して情報提供も積極的に行っている。経済的に困難な家庭に対するフォローと対応が今尚課題である。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	藤本 佳奈
--------	-----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会を組織し、活動状況の履歴を残している ・卒業生への就職相談に常に応じている ・コンテスト対策などの支援を行っている 	卒業後 1 年以内の離職 0 名を目指しているなかでまだ課題が残る。	卒後支援の一つとして、同窓会で業界セミナーや情報交換の場を提供する。	同窓会企画書
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会は毎年 1 回実施しているが、講演・技術勉強会等の再教育プログラムは実施していない。 ※30 年度は 9 月に実施予定だったが、胆振東部地震の影響で中止。	座談会の実施は年に数回実施できているものの、在校生を巻き込んでの道内の卒業生のかかわりや交流の場が必要	同窓会では卒業生同士の縦と横の繋がりを活発にし、情報交換や業界全体を盛り上げる内容で再考する	

<p>5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>	<p>□社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか □社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか □図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか □社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか</p>	<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の入学規則は学則と募集要項に明記している。 ・学則施行細則に長期履修制度を明記している ・学校施設の利用については、放課後・休日を利用できる配慮をしている ・キャリアセンター・担任が中心となり支援している 	<p>特になし</p>		<p>募集要項 教育指導要領</p>
--	--	----------	---	-------------	--	------------------------

5-21 (2/2)

<p>中項目総括</p>	<p>特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）</p>
<p>生涯教育をコンセプトに卒業生の卒業後の支援を行っている。年に一度の同窓会とホームページでの求人情報などの提供をしている。</p>	

<p>最終更新日付</p>	<p>2019年5月1日</p>	<p>記載責任者</p>	<p>藤本 佳奈</p>
---------------	------------------	--------------	--------------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p><30年度の校舎改装実施箇所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4F・6F教室内装・天井コンセント入れ替え。 ・エレベーター入れ替え ・エアコン入替 ・校内の机、イス入れ替え <p><海外研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に実施。 ・美容師科はフランス・イギリス（3名参加）、ヘアメイク科はアメリカ（10名参加）。※トータルビューティ科は参加者0名。海外研修参加者の減少が課題である。 <p><東京研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科、コースごとに11月、2月、3月に実施。 1年生141名が参加。 <p>教育環境としては、更なる充実が図れた。今後は特に産学連携の教育に力を入れていくために、提携先を開拓していく。</p> <p>課題としては建物の老朽化による不具合が多く発生している点。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の参加者減に対しては、国際教育のあり方から見直していく。また31年度は韓国研修を新たに実施し、学生が国際文化に触れられる機会を作っていく。 ・建物の不具合については、予算管理しながら計画的に実行していく。（エレベーターに関しては2年計画で30年度で終了した） 	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備は毎年整備し且つ法令も遵守している ・実習機材器具についても整備している ・休憩の学生ホールを整備している。 ・手すりや段差の少ない構造にしている ・手洗いは常に行い食中毒などの感染症の予防に努めている ・卒業生にも希望に応じて施設を貸し出している ・施設設備の点検は専門の業者に委託している ・年度毎に不具合箇所を洗い出し改築・改修を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の入れ替えが十分ではない。古いものが残っていたり、冊数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保と必要図書の入れ替えを実施する。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
コンプライアンスに則り、学習環境の維持と改善を継続している。より良い教育環境の提供の為に、改修も行い最良で最先端の学習を提供できる設備を維持するよう努力している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・就職スケジュールの中で重要性や意義・目的を明確にしている ・企画書・実習ノートを整備し適切に運用している ・企業連携こそが本校の教育の柱と位置づけ、力を入れている。 ・現場力育成の定義に則り5段階で評価していたが、規定日数の実習実施と報告書の提出を持って評価している ・各実習先に担当の教職員が引率したり実習期間中に訪問している。 ・評価表と実習日誌の表記内容を確認し教育効果を確認している ・学生が自ら考える機会を考慮し行事に参画させている ・目的に沿って対象を吟味し案内している 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修は入学当初から募集をしているが年々縮小傾向であり、30年度は13名の参加となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の魅力的なプログラム作りと安心・安全なサポート体制を作るとともに、新たに韓国研修を実施して、多くの学生が国際文化に触れられる機会を創出する。 	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
提携先企業での外部実習を学校の教育の柱と位置づけて力を入れている。 海外研修は、参加者数の減少と安心安全の提供が課題。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか <input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	4	<input type="checkbox"/> 学園より学生・職員に対しての防災マニュアルの配布し施設内に避難誘導整備を行っている。 <input type="checkbox"/> 耐震構造の建物である定期的に点検し改善を行っている <input type="checkbox"/> 避難訓練と AED 研修を年 1 回消防の立会いのもと実施している <input type="checkbox"/> ロッカーの転倒・滑り止めの対策を行っている <input type="checkbox"/> 学生・教職員に防災訓練と教育を実施している <input type="checkbox"/> 学校の安全計画と緊急時の対応方法を確立し整備している <input type="checkbox"/> 学校校門のセキュリティを万全にしている。 <input type="checkbox"/> 整備しており事故後はその報告を所定のフォーマットにて報告し適切に対応しているかチェックしている	<input type="checkbox"/> 北海道胆振東部地震の際は、学校が 2 日間停電し、7 日間休講とした。停電に対応できる設備がないため、今後整備していく。		

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		薬品は無いが、火気を扱う為常に火元の点検を教室ごとに防火管理者を選任し担当で分担している 担当を必ず置き引率体制を引いている			

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
北海道胆振東部地震を契機に危機管理体制の見直しと体制の強化を行っている。また、学生・教職員に対し、LINEとメール安否を確認できるシステムを確立している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適正に学校募集が出来るように配慮している。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これら、すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・入学生の個人情報など本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流出および他目的使用のないように管理と研修の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。入学試験終了後は、学校長・事務局長（局次長）・教務部長・広報センター長（事務局）、全学科長により構成される、「選考会議」により合否を確定し、試験結果を踏まえ、将来製菓調理業界で働くことに適性があるか総合的に判断している。学納金に関しては、毎年見直しを行っており、経費削減に努め、適正な水準で学費設定をしており、募集要項に明記している。課題は近年美容師人気に陰りが出ていることである。</p>	<p>少子高齢化と美容人気の低迷に伴い、道内の美容師希望者は 10 年前の 1200 名から 500 名程度へと半減した。</p> <p>札幌市内の老舗美容学校も、この 2-3 年は定員が確保できない状態になっている。</p> <p>一方、近年は受験生のタイプも多岐に亘っており、今後は受験生ニーズに応じた学生募集（入学案内制作、HP、体験入学内容と対応）を実行することが不可欠である。</p>	

最終更新日付

2019 年 5 月 1 日

記載責任者

下山 記弘

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	<input type="checkbox"/> 学外で行なわれる進学相談会にも積極的に参加し、情報提供を行なった。 <input type="checkbox"/> 高等学校の教職員を対象とした入学説明会は実施していないが、グループで職員が定期的に高校を訪問し、教員への情報提供を行なっている。(年間延べ500校を訪問) <input type="checkbox"/> 教員や保護者を対象とした学校案内を作成している。	高等学校との信頼関係構築	卒業生や在校生がどのような活躍しているかを地道に伝えていく必要あり	<input type="checkbox"/> 進学相談会参加一覧表 <input type="checkbox"/> 公開授業企画書、 <input type="checkbox"/> 保護者・教員向けパンフレット

<p>7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか</p>	<p> <input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか </p>	<p>5</p>	<p> <input type="checkbox"/> 北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。 (AO 入試は 8/1、その他は 10/1 から受付開始) </p> <p> <input type="checkbox"/> 志願者からの相談に関してはフリーダイヤルの他、メールでも対応できる体制を確保。また、年間 60 回のオープンキャンパスを開催し、常に来校して相談できる環境を整えている。全教職員に対して広報に関する勉強会を実施し、誰でも対応できる体制にしている。 </p> <p> <input type="checkbox"/> 学校案内等において具体的な就職データ、資格取得データを明記し、正確に情報を伝えている。 </p> <p> <input type="checkbox"/> 校内に個人情報保護委員会を設置し、管理と研修の徹底を図っており、TRUSTe プライバシー・プログラムのライセンスを取得している。 </p>		<p> <input type="checkbox"/> 募集要項 <input type="checkbox"/> 学校案内 </p>
-----------------------------------	---	----------	--	--	---

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<input type="checkbox"/> 土日や平日夜なども年間 90 回のオープンキャンパスを実施し多くの参加機会を提供している。 <input type="checkbox"/> 選考方法は、高校生・社会人を対象とした AO 入試や、留学生を対象とした留学生入試など多様な入試制度を導入している。			<input type="checkbox"/> 入学案内 <input type="checkbox"/> 募集要項

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学生募集活動は、北海道私立専修学校各種学校連合会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。</p> <p>個人情報においては、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則を基に、学校案内、募集要項の通りに適正に行われていると考えている。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	5	<input type="checkbox"/> 入学選考基準・方法は学則及び募集要項に明記している。 <input type="checkbox"/> 入学試験後に全学科長及び学校責任者、広報責任者により構成される、「選考会議」で基準に基づいて公平に合否を確定している。	特になし		<input type="checkbox"/> 募集要項 <input type="checkbox"/> 募集要項、選考会議議事録

<p>7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか</p>	<p>□学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか □学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか □学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか □財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか</p>	<p>5</p>	<p>□ 現況データに関しては、開校以来のデータを学内の共有サーバーに集約・保管している。(サーバーは定期的にバックアップを取っている) □ 毎年4月に入学者全員を対象としたアンケートを実施し、入学者の傾向(人数・男女比・年齢比・性格タイプ等)を分析し、クラス運営に役立てている。 □ 当該年度の予測数値に関しては、過去のオープンキャンパス参加者等の実績データから、早期に的確に予測できるノウハウがある。また、入学者数の予測数値に関しては5年先までの計画を立てている。 □ 財務に関しても5年先まで計画を作成しており、その進捗度を毎年チェックしている。また入学者数の予測と収入予測の整合性も取れている。</p>	<p>特になし</p>		<p>□ 現況データ</p>
--	--	----------	--	-------------	--	----------------

7-26 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>入学者選考においては募集要項に定めた通りの方法、スケジュールで適切に行なわれている。また、入学選考に関する実績をデータとして把握しており、また、入学生を対象としたアンケートも実施し、その結果を授業運営等に活用している。 将来の予測については常に5ヵ年先までの計画を立てており、毎年その進捗と計画の見直しを実施している。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	5	<input type="checkbox"/> 学納金や預かり金、教材及び講師の見直しを、毎年全学科長及び学校責任者、学生サービスセンター責任者、広報責任者が参加する会議にて行っており、学費及び諸経費の無駄な支出がないかチェックしている <input type="checkbox"/> 競合する他校の学納金を調査し、適正な学納金を定めている。 <input type="checkbox"/> 徴収する金額は募集要項上にすべて記載している。	特になし		<input type="checkbox"/> 競合校比較データ <input type="checkbox"/> 募集要項

7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	□文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	5	□募集要項に明記しており、入学辞退の申し出があった場合には適切に対応している。	特になし		□募集要項
---------------------------------------	--	---	---	------	--	-------

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学納金については毎年見直しを行っており適正な水準で設定している。また、入学辞退者への学費返納についても、文部科学省の通知及び、北海道私立専修学校各種学校連合会の基準に基づき、募集要項にも明記し、適正に対応している。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年5か年の事業計画を策定し、中長期の視点で予算を立てている。</p> <p>また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。</p> <p>また、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。</p> <p>さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開の体制を、平成17年4月からとっている。 ※当校における情報開示の申請は、現状では0件。</p> <p>30年度は、予算と実績の差がなく、当初計画通りに予算管理ができた。</p>		<p>当法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。</p> <p><組織体制></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 <p><公開資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 <p><閲覧場所></p> <p>法人本部</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	5	<p>毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。</p> <p>その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。</p> <p>また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。</p> <p>借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。</p> <p>これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。</p>	特になし	。	
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	5	<p>キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。</p> <p>数値は3か月ごとに</p>	特になし。		

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		<input type="checkbox"/> 毎年事業計画で予算をたて、学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組んでいる。予算は学園内部の監査もあり2重チェックでミスが起きないように管理されている。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	5	5か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。			
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	5	<p>収支予算については学校現場のみならず学園本部も協議しながら作成し、見直しする。そのため予算の本部と現場との認識のずれはない。</p> <p>作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。</p> <p>必要に応じ、年次途中で修正予算を組む。</p>			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているので妥当な方法と考えている。</p> <p>5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものとする。</p>	<p>予算を立てるだけでなく一年の流れの中で随時見直しをしている。それにより収支計画通りの実行がなされ、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	5	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	特になし	。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えます。</p> <p>監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。</p>	<p>私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。</p>

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	5	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。 財務情報は HP で公開している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報公開の体制整備はできている。 学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。 今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令を遵守するという考えを学校の基本方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。</p> <p>学校法人は文部科学省の規定する専修学校規定ならびに厚生労働省の規定する各国家試験に関わる養成施設指定規則&養成施設指導要領に準拠していなければならない。</p> <p>本学園では法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。</p> <p>特に国家試験系の美容師養成施設の運営チェックは厚生労働省が推奨している「養成施設自己点検表」に基づいて行っている。</p> <p>28年度は10月に3日間、美容師養成施設の指導調査が行なわれたが、大きな問題もなく終える事ができた。</p>	<p>変更の度に提出が義務付けられている学則変更などには適正に対応しているが、一部の届出事項において記載漏れ、提出漏れがあるため、今後もコンプライアンス、ガバナンスを怠り無く継続する</p>	

最終更新日付

2019年5月1日

記載責任者

下山 記弘

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	5	<input type="checkbox"/> 法人において、法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施しているが、担当者の異動による引継ぎが課題である。 <input type="checkbox"/> ハラスメント防止に関する規定を就業規則に明記している。 <input type="checkbox"/> SSC（スチューデントサービスセンター）が相談窓口となっている <input type="checkbox"/> 法令順守に関する教育を実施している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校では法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施している。また、法人内に「コンプライアンス委員会」を設置し、行動規範や規定の策定、研修の実施を行なっている。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<input type="checkbox"/> 個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、研修の徹底を図っている。 <input type="checkbox"/> 個人データを蓄積した記録の取り扱いに関しては、外部のインターネットとつながらない独自のシステム（AS400）にて適正に管理し、認証を受けた者以外が情報を見ることができない仕組みになっている。 <input type="checkbox"/> サイトの運用にあたっては、TRUSTe プライバシー・プログラムのライセンスを取得し、適正に行なわれている。 <input type="checkbox"/> 教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施している	<input type="checkbox"/> 業務の性質上、個人情報を多く扱うため、教職員・講師のさらなる意識向上が重要である。	<input type="checkbox"/> 定期的な個人情報保護の呼びかけと、机上整理、PC内整理の推進。 <input type="checkbox"/> 個人情報持ち出し申請の実施。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校という業務上、日々大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生の教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	5	<input type="checkbox"/> 実施に関し、評価規定の整備を行なっている。 <input type="checkbox"/> 自己評価実施に向けて、組織体制を整備しメンバーで評価を行なった。 <input type="checkbox"/> 評価結果からあがった改善に対してすぐにカリキュラム変更を行ない対応した。	特になし		<input type="checkbox"/> 評価規定 <input type="checkbox"/> 委員会名簿・組織図
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書にまとめ、HPに公開した。	特になし		<input type="checkbox"/> 自己評価結果の公表 (本校ホームページ)
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	5	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学校評価規定の整備を行なった。 <input type="checkbox"/> 初めての実施に向けて組織体制を整備した。	特になし		<input type="checkbox"/> 評価規定 <input type="checkbox"/> 委員会名簿

9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書にまとめ、HPに公開した。	特になし		<input type="checkbox"/> 学校関係者評価結果の公表(本校ホームページ)
--------------------------	--	---	--	------	--	---

9-34 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
評価実施に向けて規定や組織の整備、結果の公表などを行なった。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	5	<input type="checkbox"/> 情報公開に関しては、本校ホームページや学校案内にて行なっている。特に日々の教育内容に関してはブログを活用し日々発信している。 <input type="checkbox"/> 学校案内で教育内容を見ることができるのは資料請求者に限られるが、ホームページにも同様の内容を公表しているので広く社会に公開されている。	特になし		<input type="checkbox"/> 本校ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育情報の公開に関しては、学校案内及びホームページにて適正に公開している。	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、ミッションに「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、積極的に社会貢献活動を行なっている。</p> <p>具体例として、中高生を対象とした出前授業や総合学習の受け入れを実施している。</p> <p>また、教育の一環として実施している、学生サロン（メイク、ネイル、エステ、シャンプー・ブロー）は、学生の技術、接客能力の向上はもちろん、地域の住民の方々へのサービスという意味合いも含んでいる。</p> <p>平成30年に発生した胆振東部地震の際は、職員有志が学内でシャンプーボランティアを実施。停電で風呂に入れないう住民や観光客に多数利用していただいた。</p>	<p>地域清掃も引き続き実施し、更なる地域からの信頼獲得に勤める</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	4	<input type="checkbox"/> 学園のミッションに「業界の信頼」「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、学校をあげて積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 地域へは、毎週実施している学生サロンを提供。業界へは、検定試験会場など設備を提供。卒業生へは日々、技術練習のために実習室及び就職情報提供のため、キャリアセンターを開放している。 <input type="checkbox"/> 高校生の総合学習での授業を実施した。 <input type="checkbox"/> 生涯学習講座は開講していないが、検定等で広く地域・業界に教室を貸し出している。 <input type="checkbox"/> SNSなどの活用方法、トラブル防止のための「ITリテラシー研修」を実施。	ITリテラシーにおいて、学生向け研修は実施しているが完全に学生が理解しているか課題が残る。	ITリテラシーに反する事例を交えての授業などの工夫を行ない、根気良く続けていく。	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	5	<input type="checkbox"/> 学園のミッションに「国際教育」を掲げ、学校をあげて取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 学生向けには特別授業を展開しているが、教職員には特に実施していない。 <input type="checkbox"/> 学園が設置する海外事務所が5カ国にあり、留学生の受入れ窓口になっている。また、韓国・啓明文化大学などの提携校を持ち、留学生の受入れを行なっている。 <input type="checkbox"/> 留学生受入れの方針については「外国人留学生入学規則」に明記しており、教育目標等の設定に関しても留学生に対する配慮を行なっている。 <input type="checkbox"/> 実施しているのが、海外研修と札幌での国際特別授業であり、国際レベルの教育提供に注力している。 <input type="checkbox"/> 本校ホームページを中国語、韓国語、英語で見られるようにしている。	特になし		<input type="checkbox"/> 入学案内 <input type="checkbox"/> 保護者・教員向けパンフレット <input type="checkbox"/> 教育指導要領 <input type="checkbox"/> 本校ホームページ(外国語版)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園はミッションの1つとして「国際教育」を掲げ、国際教育に力を入れている。本校では海外教育顧問という位置づけで、フランス・パリの世界的なスタイリストである、ジャン・ミッシェル・ファレトラ氏に技術、知識、美容の素晴らしさなどを教えて貰っており、希望者は海外研修として5日間の教育機会を与えている。</p> <p>また、留学生の募集に関しても海外に事務所を構え、入学相談から、入国手続きまで留学生が安心して相談できる体制を整えている。</p> <p>(30年度はトータルビューティ科1年生に1名、2年生に1名留学生が在籍)</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	5	<input type="checkbox"/> 積極的にボランティア活動を奨励している。例として、小中学生等の総合学習の実践や地域への学生サロンの提供。 また、学生が地域清掃として購読演習時間を利用し、学校付近のゴミ拾いを実施している。 <input type="checkbox"/> 活動の窓口は、て入学事務局が担当している。 <input type="checkbox"/> 活動実績は常に把握しており、企画書形式で活動概要も管理している。 <input type="checkbox"/> 活動実績は特に評価していない <input type="checkbox"/> 活動結果は学内では朝礼終礼で報告される他、メールにて職員に対し情報共有している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園のミッションに「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、地域や業界へ貢献する取組みを行なっている。まだまだ改善の余地があるため、今後も積極的に取り組んでいきたい。</p>	

最終更新日付	2019年5月1日	記載責任者	下山 記弘
--------	-----------	-------	-------

4 平成 30 年度重点目標達成についての自己評価

平成 30 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>① 学校のブランド化推進</p> <p>学校を永続的に存続させていくために学校のブランド化を図っていく。ブランド化とは、「本校がどんな学校であるか」を、学校に関わる全ての方(学生、教職員、業界、高校、近隣)に認識してもらう事と定義して改革を進めていく。</p> <p>平成 30 年度は、昨年度に基盤を作り上げた産学連携と東京・原宿にある姉妹校との連携を強化して「最新の美容・ファッションが学べる学校」としてブランド化を推進していく。</p> <p>指標として、入学者数 240 名を目標とする。</p> <p>② 学校運営の基本に立ち返る。</p> <p>ブランド化推進と平行して、一人ひとりの学生のサポートという教育の基本に立ち返り、下記の項目を重点的に取り組んでいく。</p> <p>教育(進級率)</p> <p>中途退学者のみならず転科者対策も含めた指導体制の見直しを実施し、91.5%を最低目標とする。具体的には現場実習を中心とした教育で</p> <p>学生のモチベーションを高め、社会で生きる力を身につけてもらう。教員の学生への関わり方として「自己肯定感」を高める指導を実施していく。</p> <p>就職(就職率 100%)</p> <p>早期内定獲得を目標として、最低ラインとして全員就職を達成する。また、学校のコンセプトである「最新の美容・ファッション」を学んだ成果として札幌・東京のTOPサロン、ヘアメイク事務所等へ就職できる学生を増やしていく。</p>	<p>① 学校のブランド化に関しては、1年間かけて継続的に業界との関係作りを行ってきた。その結果、学生や業界からも学校の教育活動が評価され始めてきている。</p> <p>産学連携と姉妹校連携を徹底して磨き、また業界活性化イベント「JOINT」を開催するなど、学校のブランド化に努めた。</p> <p>→入学者数は209名と、目標には届かなかった。</p> <p>② 指標とした進級率 91.1%となり、掲げた目標を達成する事ができなかったが、美容師科が開校以来最高の進級率(90.9%)となり、ブランド化推進が教育に作用する良いサイクルがまわり始めた。</p> <p>就職については結果として、就職率100%(141名内定)となり、掲げた目標を達成する事ができた。しかし道内外のTOPブランド等への就職は昨年を下回り、課題となった。</p>	<p>次年度に向けて学校のブランド化を継続して行っていく。</p> <p>また、学校運営の基本に立ち返り、2018年度掲げた指標を再度追っていくとともに下記の項目に関して重点的に取り組んでいく。</p> <p>広報(定員充足)</p> <p>在校生・受験生に価値のある教育を発信し続け、定員240名を充足する事を目標とする。</p> <p>教育(進級率)</p> <p>2年間モチベーションを維持できる教育体制を構築し92%を最低目標とする。</p> <p>就職(TOPブランド就職)</p> <p>64名</p>

令和元年度の重点課題

●学校のブランド化推進と学校運営の基本の徹底

学校を永続的に存続させていくために学校のブランド化を図っていく。ブランド化とは、「本校がどんな学校であるか」を、学校に関わる全ての方（学生、教職員、業界、高校、近隣）に認識してもらい事と定義して改革を進めていく。

2019年度は、「最新の美容・ファッションが学べる学校」として産学協同・姉妹校連携を通じたブランド化を推進していく。また、その教育を受けた結果「どのようになれるのか」を体言すべく、就職実績の質にもこだわった戦略をもって学校運営を行なっていく。

指標として、入学者数 240 名（＝定員充足）、就職実績として TOP ブランド就職（各学科ごとに定義を決めて）64名とする。

美容師科＝全学生が希望の就職を果たせるよう、サポートする事は当然として、学生が憧れ、ブランド力のある道内外の20サロンをピックアップし、その就職実績を指標とする。

ヘアメイク科＝同様に全員就職はもちろんだが、学んだ成果を一番発揮できる就職先として「ヘアメイク事務所」への就職を指標とする。

トータルビューティ科＝同様に全員就職はもちろんだが、メイク・エステ・ネイル・ファッション・ビジネスの5分野においてブランド力のある企業への就職を指標とする。

●ブランド化推進と平行して、一人ひとりの学生のサポートという教育の基本に立ち返り、下記の項目を重点的に取り組んでいく。

・教育（指標＝進級率）

2年間学生がモチベーションを保ち続けられるカリキュラム・指導体制の見直しを実施し、92%を最低目標とする。具体的には現場実習を中心とした教育で学生のモチベーションを高め、社会で生きる力を身につけてもらう。教員の学生への関わり方として「自分から動ける力」を高める指導を実施していく。また、学生個々の希望が多様化するなか、「多様な受け皿」を用意しニーズに応えていく。具体的には一例として美容師科であればメンズヘアセットのニーズが高まっているので授業に組み込んでいったり、トータルビューティ科ではメイク人気が高いのでメイク（企業・アーティスト）の特別授業を強化していく。